

『大衆文化』創刊準備号 目次 (2008年3月)

- ・ 創刊の辞 / 藤井淑禎
- ・ 庶民モラルとしての「任侠」とは何か
——佐藤忠男『長谷川伸論—義理人情とは何か—』をめぐって / 筒井清忠
- ・ 市川昆の「こころ」 / 藤井淑禎
- ・ 舞台劇『放浪記』をめぐって——テキスト〈林芙美子〉の行方 / 羽矢みずき
- ・ 雲を凌ぐ——「押絵と旅する男」と浅草十二階 / 丹羽みさと
- ・ 大衆娯楽雑誌『平凡』と評論家大宅壮一——ふたつの研究から見えてくるもの / 阪本博志
- ・ 中国における日本の大衆文化研究の現状と展望 / 王成
- ・ 江戸サブカル紀行——八百屋お七と岡山 / 渡辺憲司
- ・ 翻刻「二銭銅貨」 / 落合教幸・藤井淑禎

『大衆文化』創刊号 目次 (2009年4月)

- ・ 巻頭エッセイ / 「二十面相」世代の乱歩観 / 紀田順一郎
- ・ 酸素カフェテリアと死者の町——大衆情報消費社会における酸素マスク表象 / 原克
- ・ 乱歩と大東京 / 藤井淑禎
- ・ 「九州演劇」とその時代 / 石川巧
- ・ 日本におけるルバーシカ着用の起源をめぐって / 小林実
- ・ 昭和十四年、「犯人」形成の新たな試み——江戸川乱歩「暗黒星」論 / 落合教幸
- ・ 韓国における論介と春香の受容 / 岩谷めぐみ
- ・ 天満天神繁昌亭の成立と展開 / 恩田雅和
- ・ 歌舞伎としての乱歩——小説『人間豹』から歌舞伎『江戸宵闇妖鉤爪』へ / 松本和也
- ・ 韓国における日本大衆文化の受容について / 金恵珍

『大衆文化』第二号 目次 (2009年9月)

- ・ 翻刻「D坂の殺人事件」草稿 / 落合教幸
- ・ 「依頼型」から「巻き込まれ型」へ——江戸川乱歩「D坂の殺人事件」草稿覚書 / 落合教幸
- ・ 校門の外をめざした学校唱歌——卒業式による広報戦略 / 有本真紀
- ・ 「月の砂漠」の系譜学——流行歌とアラビア表象 / 舌津智之
- ・ 貸本屋と読書サークルの時代——吉川英治『宮本武蔵』と大衆読者 / 藤井淑禎
- ・ オバマ報道を考える / 黄盛彬
- ・ 戦後台湾における日本大衆文化の受容——アイデンティティの構築と脱構築 / 林鴻亦

- ・ 「九州演劇」総目次 / 石川巧

『大衆文化』第三号 目次 (2010年4月)

- ・ 中国の芝居の文系男子問題 / 細井尚子
- ・ メディアミクス文化史のなかの江戸川乱歩と横溝正史 / 江藤茂博
- ・ 映画のなかのカメラ / 三浦雅弘
- ・ 俳諧大衆化の二方向——形式の縮小化と数量の拡大化 / 加藤定彦
- ・ 大宅壮一の文化大革命レポート / 藤井淑禎
- ・ ワルキューレはさまよう / 平山城児
- ・ 見るものと見られるものをめぐって——結城座『乱歩・白昼夢』 / 後藤隆基
- ・ 翻刻「人間椅子」草稿 / 落合教幸

『大衆文化』第四号 目次 (2010年9月)

- ・ 大衆メディア史を反射する「鏡の女」——女優・ひし美ゆり子の足跡 / 樋口尚文
- ・ 嬰殺旗本探偵実話 断ち切られたものたちの闇 / 浜田雄介
- ・ 窠変・橋本治——告白 / 後藤和彦
- ・ 「男女共同参画社会」をめぐる一考察——「第三次男女共同参画基本計画」策定の年にあたって / 近藤弘
- ・ 『風と共に去りぬ』と戦後日本人 / 藤井淑禎
- ・ 『時勢走馬燈 一名 親父肝潰誌』という書物 / 池田一彦
- ・ 『明烏後正夢』における説教祭文の受容——人情本と大衆芸能 / 坂口香恵

『大衆文化』第五号 目次 (2011年4月)

- ・ パノラマ文化史管見——『パノラマ島奇談』の余白に / 副島博彦
- ・ ルパン誕生前のルブラン——スピードの魅惑 / 坂本浩也
- ・ 漢字と日本語・日本語教育 / 沖森卓也
- ・ 大衆作家が描いた〈安保〉——石坂洋次郎『あいつと私』と舟橋聖一『エネルギー』 / 藤井淑禎
- ・ 円朝の現在 / 宮信明
- ・ 砂書房版『松本清張研究』奮闘記 / 田中伸和
- ・ 翻刻「活動写真のトリックを論ず。」 / 落合教幸

『大衆文化』第六号 目次 (2011年9月)

- ・ 飄亭、不折、子規と三陸大津波——「海嘯」十四句をめぐる / 加藤定彦
- ・ 紅が谷の青い空・再説——『行人』『心』、二つの鎌倉 / 藤井淑禎
- ・ オペラへの迷い言 / 守屋省吾
- ・ 占領期の大宅壮一をめぐる「点と線」 / 阪本博志
- ・ 大正期における『歌舞伎新報』の復活 / 後藤隆基
- ・ 翻刻「映画論」 / 落合教幸

『大衆文化』第七号 目次 (2012年4月)

- ・ 原発建設時代の日本のSFアニメ / 秦剛
- ・ 熊谷市胄山に残る歴史遺産——根岸家住宅長屋門について / 横山晋一
- ・ 三島由紀夫 VS. 増村保造——映画「からっ風野郎」とその後の三島の身体イメージをめぐる / 安智史
- ・ 映画『男はつらいよ』にみる活版印刷 / 滝口富夫
- ・ 『女の一生』はなぜ『人形の家』に勝てたのか / 藤井淑禎
- ・ 俵藤丈夫編集長下の『歌舞伎新報』 / 後藤隆基
- ・ サイレント映画脚本の周辺 / 若井尚子
- ・ 翻刻「トリック写真の研究」 / 落合教幸

『大衆文化』第八号 目次 (2013年1月)

- ・ 映像メディアの力——中国における清張ミステリーの受容 / 王成
- ・ スキャンダルの両義性——明治の女学生バッシングから「新しい女」へ / 岡田明子
- ・ 川上音二郎と竹越與三郎 / 後藤隆基
- ・ 囚われない三三——「柳家三三で北村薫。」評 / 大塩竜也
- ・ 翻刻「死」 / 落合教幸

『大衆文化』第九号 目次 (2013年9月)

- ・ 〈文壇作家〉時代の松本清張・I——「多芸は無芸」の危うさのなかで—— / 藤井淑禎
- ・ 『ソヴェト文化』総目次 / 吉田則昭
- ・ 二代目団十郎と江戸の開帳興行——不動明王を中心に—— / ビュールク・トーヴェ
- ・ 《資料紹介》亀井勝一郎「読書の態度と実際」(一九四二年)——翻刻と解題 / 赤堀杏奈

- ・ 江戸川乱歩『心理試験』の精神分析——典拠から技法へ、すなわちユングからラカンへ—— / 中原雅人
- ・ 翻刻「踊る一寸法師」草稿 / 落合教幸

『大衆文化』第十号 目次 (2014年3月)

- ・ 日本人の蔵書志向と江戸川乱歩 / 紀田順一郎
- ・ ポンスから二十面相へ——蒐集家としての怪盗の肖像—— / 菅谷憲興
- ・ 夏目漱石『門』の御米について / 藤井淑禎
- ・ 〈老い〉の中の獅子文六／岩田豊雄——『可否道』「出る幕」—— / 米山大樹
- ・ 《資料紹介》中学生時代の太宅壮一——時事新報社発行の雑誌『少年』への投稿活動と学業成績—— / 阪本博志
- ・ 《資料紹介》江戸川乱歩・野村胡堂往復書簡——黒岩涙香本をめぐって—— / 丹羽みさと
- ・ 《資料紹介》井上良夫宛江戸川乱歩書簡 / 落合教幸

『大衆文化』第十一号 目次 (2014年9月)

- ・ 啄木短歌における大衆性について / 太田登
- ・ 吉永小百合主演映画とベテラン俳優宇野重吉の役割——「愛と死をみつめて」(昭和三九)の場合を中心として—— / 藤井淑禎
- ・ 戦後日本における海外短波放送のリスナー / 井川充雄
- ・ 文学の中の「骨相学」——夢野久作『ドグラ・マグラ』から / 鈴木優作
- ・ 沖野岩三郎の〈実話もの童話〉 / 六川綾夏
- ・ 《資料紹介》『貼雑年譜』に見る江戸川乱歩と山手樹一郎の交流 / 影山亮
- ・ 《資料紹介》井上良夫宛江戸川乱歩書簡(2) / 落合教幸

『大衆文化』第十二号 目次 (2015年3月)

- ・ 旧小中野遊郭の新むつ旅館(新陸奥楼) / 渡辺憲司
- ・ 職業作家・松本清張の出発——全集未収録小説「女に憑かれた男」、「溪流」を読む / 石川巧
- ・ 日本統治時代の台湾におけるラジオ体操 / 井川充雄
- ・ 松本清張と「連環画」との遭遇——イメージの増殖と変容 / 尹芷汐
- ・ 「蛇性の姪」における雄黄について / 相馬真理子
- ・ 旧制茨木中学校における一九二〇年のストライキと太宅壮一 / 阪本博志
- ・ 《資料紹介》翻刻「恐ろしき錯誤」草稿 / 落合教幸

『大衆文化』第十三号 目次 (2015年9月)

- ・ 乱歩邸の旧所有者坂一族について / 藤井淑禎
- ・ 巨大ターミナル池袋の変遷とゆくえ / 古田土紗季
- ・ 戦後池袋演劇史——アバンギャルドと池袋文化劇場 / 後藤隆基
- ・ 《資料紹介》昭和二十年、罹災直後の数通の手紙——江戸川乱歩の空襲体験 / 落合教幸

『大衆文化』第十四号 目次 (2016年3月)

特集《池袋＝自由文化都市プロジェクト》戦後池袋——ヤミ市から自由文化都市へ——

- ・ 「戦後池袋——ヤミ市から自由文化都市へ——」展示企画展報告 / 石川巧
- ・ 「不滅の江戸川乱歩展」報告 / 北村一男
- ・ 秋の收藏資料展「池袋ヤミ市と戦後の復興」について / 横山恵美
- ・ 「池袋＝自由文化都市プロジェクト」における立教学院展示館の展示について / 豊田雅幸
- ・ 池袋の戦後史をめぐる〈場〉とにぎわいの創出——「池袋＝自由文化都市プロジェクト」にみる大学の地域連携の道筋 / 後藤隆基
- ・ 旧江戸川乱歩邸特別公開 / 落合教幸
- ・ 《資料紹介》鏡地獄——江戸川乱歩「鏡地獄」戦後改稿版 / 落合教幸

『大衆文化』第十五号 目次 (2016年12月)

- ・ 戦後池袋の娯楽文化とロサ会館 / 伊部知頭
- ・ 都市における地域学としての「池袋学」の可能性(一)——立教大学と東京芸術劇場による地域連携の実践 / 後藤隆基
- ・ 飢えと混乱を生きること——梅崎春生「飢えの季節」論—— / 渡部裕太
- ・ 《資料紹介》江戸川乱歩の創作ノート(昭和三十年)——「化人幻戯」「影男」「月と手袋」「十字路」と少年探偵 / 落合教幸

『大衆文化』第十六号 目次 (2017年3月)

特集 二〇一六年の江戸川乱歩関連展示

- ・ 江戸川乱歩、パリにやってきました。 / ジェラルド・ブルー
- ・ 異なるジャンル、共通する感覚——萩原朔太郎生誕百三十年記念・前橋文学館特別企画展「パノラマ・

- ・ ジオラマ・グロテスク——江戸川乱歩と萩原朔太郎」を開催して / 津島千絵
- ・ 特別展「ビブリア古書堂の事件手帖」を開催して / 小田島一弘
- ・ 「日本ミステリー文学展～藤田宜永からの招待状～」を振り返って / 尾崎秀甫
- ・ 解放後の韓国における大衆芸能に関する一考察——菓売り・パルタル・女性芸能団体の再評価—— / 神野知恵
- ・ カルチュラル・アサイラム——中国インディペンデント・ドキュメンタリーの透明な砦 / 秋山珠子
- ・ 《資料紹介》大正末期から昭和初期における探偵小説と演劇の交差——江戸川乱歩宛長谷川伸書簡群を視座として / 後藤隆基
- ・ 《資料紹介》仁木悦子・江戸川乱歩書 / 落合教幸

『大衆文化』第十七号 目次 (2018年1月)

- ・ 『高見順全集』未収録小説。「眞砂子」の紹介・解題 / 松本和也
- ・ 〈資料紹介〉「ダアキン氏小瘤」翻刻及び解題 / 落合教幸
- ・ 華人文化圏に広がる新劇——オスカー・ワイルド『ウィンダミア夫人の扇』を例に—— / 鈴木直子
- ・ 江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録1——日本之部—— / 丹羽みさと

『大衆文化』第十八号 目次 (2018年3月)

- ・ 〈天才〉と〈犯罪者〉のあいだ——大正期谷崎作品の人物造型をめぐって—— / 金子明雄
- ・ 遠藤周作の新資料発見「阿弗利加の躰臭」について / 杉本佳奈
- ・ 「一九五〇年代における雑誌『明星』の連載小説とそのメディアタイアップ展開（付・一九五〇年代『明星』連載小説一覧）」 / 阪本博志
- ・ 江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録2————和本目録、洋書目録、西洋に関するもの、東洋に関するもの—— / 丹羽みさと

『大衆文化』第十九号 目次 (2018年10月)

- ・ 近世の俗文芸と「お竹大日」伝承——文化文政期を中心に—— / 神林尚子
- ・ 日本当時下台湾における時差撤廃とラジオ / 井川充雄
- ・ 戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』 / 石川巧
- ・ まなざしへの抵抗——岡崎京子『ヘルタースケルター』論 / 村松まりあ
- ・ 「ナイフ」の向かう先——江戸川乱歩「人間椅子」試論—— / 入山洗希
- ・ 〈書評〉『〈ヤミ市〉文化論』書評——眩しい都市 / 川崎賢子
- ・ パネル発表「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」の発表報告

『大衆文化』第二十号 目次 (2019年3月)

- ・ 豊子愷の「詩画」意識と「黒画」批判 / 南雲大悟
- ・ 演歌は「演じる歌」か?——近代日本における大衆音楽と上演文化のミッシング・リンク——
/ 輪島裕介
- ・ 「黒蜥蜴」の表象をめぐって——江戸川乱歩『黒蜥蜴』論—— / 海老澤彩香
- ・ [研究ノート] 挿絵画家としての中村研一 ——「海燕」「女の一生」「春の行列」「花と兵隊」
/ 松本和也
- ・ 〈資料紹介〉江戸川乱歩旧蔵『古版奇術書』同梱資料——山本慶一宛・乱歩発書簡控えを中心に
/ 米山大樹

『大衆文化』第二十一号 目次 (2019年10月)

- ・ [新派再考—新派百三十年記念シンポジウム] 座談会「新派百三十年とその未来」
/ 喜多村緑郎・河合雪之丞・齋藤雅文・神山彰(司会)
- ・ 憧れを抱いて芽吹く——大石真「教室二〇五号」論—— / 石橋剛
- ・ 夢野久作の受験生時代とその交友 / 川下俊文
- ・ 植民地朝鮮の「孤立」された作家金来成と江戸川乱歩 / 姜泰雄
- ・ 覗かれるもの/覗くもの——「押絵と旅する男」再考—— / 丹羽みさと

『大衆文化』第二十二号 目次 (2020年3月)

- ・ 佐野史郎氏特別講演記録「乱歩と戦争」 / 佐野史郎/細井尚子/金子明雄(司会)
- ・ 侍と探偵の蜜月——大衆文学ジャンルの再編成における捕物帳—— / 影山亮
- ・ 新派と歌舞伎のあいだ ——五代目中村芝翫の家庭小説劇をめぐって—— / 金子明雄
- ・ 語る<女>と語られる<女たち>——永井荷風『つゆのあとさき』における語り論 / 金田みか
- ・ ハイジンの行方——江戸川乱歩「二癡人」論 / 出口歩
- ・ 旅立つ「兄」——江戸川乱歩「押絵と旅する男」論—— / 横田遼
- ・ 翻刻「経済学と心理学との関係を論ず。」 / 松本陸杜

『大衆文化』第二十三号 目次 (2020年9月)

- ・ 艶めかしき怪談——江戸川乱歩「人でなしの恋」論(上) / 石川巧
- ・ 江戸川乱歩「孤島の鬼」の着想を巡って / 小松史生子
- ・ 岸田國士「かへらじと」を読む ——移動演劇の作劇術 / 松本和也
- ・ 「Pink」から『pink』へ——岡崎京子『pink』論 / 村松まりあ

『大衆文化』第二十四号 目次 (2021年3月)

- ・ 艶めかしき怪談——江戸川乱歩「人でなしの恋」論(下) / 石川巧
- ・ 犯罪・活動写真・探偵小説——ジゴマ騒動と犯罪フィクションをめぐる言説の再配置——
/ 井川理
- ・ 撞着する思想と形式——夢野久作『ドグラ・マグラ』を中心として / 松田祥平
- ・ 占領下の時代小説ジャンルにおける<新古交代>言説 / 影山亮
- ・ 不可視化される占領と強調される戦争体験の残存性——野間宏『崩解感覚』論 / 秀島希望
- ・ 江戸川乱歩旧蔵資料にみる探偵作家クラブの出発——「レビュー殺人事件」脚本と乱歩直筆原案を調査する / 米山大樹

『大衆文化』第二十五号 目次 (2021年9月)

- ・ 明治末年における西洋美術受容・再考——言説上の印象派<インプレッショニズム>・後期印象派<ポスト・インプレッショニズム> / 松本和也
- ・ レジス・メサックの博士論文とヴァルター・ベンヤミン
——探偵小説の起源をめぐる / 槇野佳奈子
- ・ 占領を解かれた「宮本武蔵」——新国劇版ラジオドラマを読む(一) / 石川巧
- ・ 戦後の宝塚歌劇——植田紳爾の仕事から見る—— / 王楽水
- ・ 境界としての「からだ」——井上ひさし『シャンハイムーン』論 / 牛路遥

『大衆文化』第二十六号 目次 (2022年3月)

- ・ 占領を解かれた「宮本武蔵」——新国劇版ラジオドラマを読む(二) 承前 / 石川巧
- ・ 江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」完成地における信仰の様態
——三重県亀山市関町岩屋観音をめぐる—— / 宮本和歌子
- ・ 童謡はなぜ<怖い>のか——言説の背景とその機能について—— / 井手口彰典
- ・ 影山三郎とアジア——東京帝国大学在学時と立教大学在職時をつなぐもの—— / 阪本博志

- ・ 『新青年』研究後悔記　／　浜田雄介
- ・ 勉誠出版『江戸川乱歩大事典』書評——江戸川乱歩研究の基盤構築——宮本和歌子
- ・ 翻刻「恐ろしき錯誤プロット」　／　塩井祥子
- ・ 江戸川乱歩の土蔵内洋書目録——蔵書印のある書籍を中心に——　／　宮本祐希

『大衆文化』第二十七号 目次　（2022年9月）

- ・ 江戸川乱歩「お化人形」に描かれた神戸　／　宮本和歌子
- ・ 占領を解かれた「宮本武蔵」——新国劇版ラジオドラマを読む（三）　承前　／　石川巧
- ・ <枠組み>の崩壊——井上ひさしコントの世界——　／　牛路遥
- ・ コロナ禍下における堂本光一と『Endless SHOCK』の軌跡　／　後藤隆基
- ・ 【研究ノート】江戸川乱歩とコナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ』
——乱歩による翻訳と論文を中心に——　／　余玟欣
- ・ 【書評】雑誌文化研究会と『大宅壮一文庫解体新書』　／　阪本博志